

JA 全農ちば 営農情報集

2025年
12月



今月の情報

- I. 令和7年産米振り返り
- II. 園芸野菜 病害虫防除情報
- III. 育苗期サツマイモ管理
- IV. 安全な農作物生産の取り組みについて

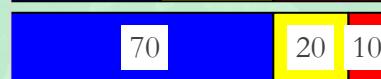
今月の気象（気象庁11/27発表 1か月予報より）

平年と比較し、晴れの日が多くなります。気温は低い～平年並みとなり、施設野菜では、夜間の閉め切りによる多湿が危惧されます。病害リスクが高まりますので引き続き、薬剤の予防散布を心掛けましょう。

【気温】



【降水量】



【日照時間】



■:低い ■:平年並み ■:高い

注意とお願い

※ 本資料の無断複数複数転載を禁じます。JA全農ちば 営農支援課

農薬登録内容は掲載時点の情報です。農薬を使用する際に必ず最新の登録内容をご確認ください。

I. 令和7年産 水稲生産を振り返って

JA全農ちば 営農支援課

1. 令和7年産水稻 千葉県の作柄概況

農林水産省（11月18日公表）によると、令和7年産の千葉県の生産者が使用しているふるい目幅（1.80mm～1.90mm）ベースの予想収穫量は、10aあたり収量546kg（前年対比98）となりました（10月25日現在）。

関東農政局発行の令和7年産水稻の作付面積及び10月25日現在の予想収穫量の補足資料によれば、分げつ期に当たる5月中旬から6月中旬にかけての日照不足により穂数は少なくなりました。しかし、その後は多照で推移し、1穂当たりもみ数は多く、全もみ数（穂数×1穂当たりもみ数）は「前年並み」となりました。また、千もみ当たり収量は、出穂期以降、高温により登熟が抑制されたことから「やや少ない」と見込まれます。

2. 時期別振り返り

（1）播種～育苗期

本年は、播種後、発芽しない・揃わない・遅い等の課題が散見されました。過去2年と比較し3月末の平均気温が低かったため、低温による影響が大きかったと推測されます。

⇒【対策】

夏だけでなく、育苗期から気候変動が極端化しています。管理もその時々の気候に合わせた管理を心がけましょう。種子消毒・浸種時の水温確保（10～15°C）を徹底し、催芽を確実に実施しましょう。

※浸種期間はコシヒカリで100°C（10°C×10日）、ふさおとめ・ふさこがねでは少し長めの浸種（10°C×12日程度）が必要です。

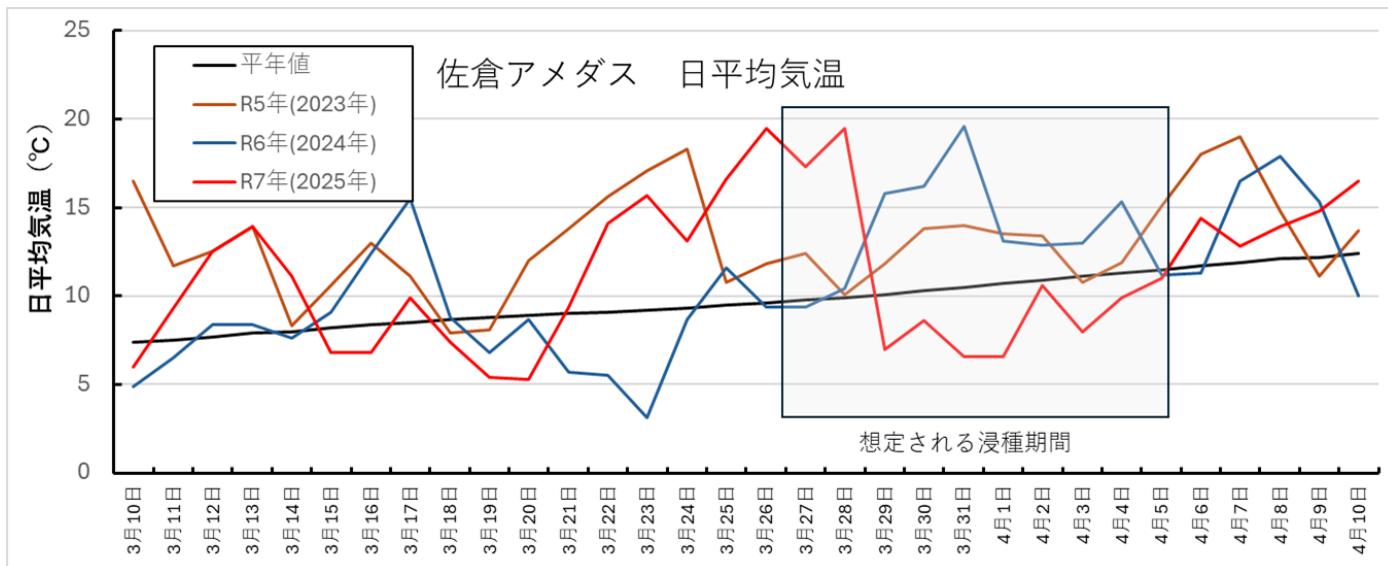


図. 浸種期間の7年産および過去2年の比較

(2) 移植期から分けつ期

4月から6月では日照時間がやや少なく、低温となる期間もありました。

茎数は平年並ですが、草丈はやや長く、葉色は並～やや濃く推移しました（千葉県生育情報より）。

(3) 幼穂形成期から出穂期

いずれの品種も幼穂形成期が平年並みとなりました。

7月は気温が非常に高く推移し、4月20日植えのコシヒカリ・ふさおとめ・ふさこがねでは、出穂は平年よりも2～4日程度早くなりました。

3. 7年産米の品質について

出穂期は2012年以降早期化傾向で、令和7年（2025年）の出穂期は過去、最も早かった令和6年（2024年）より1日遅い7月17日と推定されました（県内水田の50%で出穂した時期）。

白未熟粒の発生と関係する出穂後20日間の平均気温は、令和7年28.8°Cで、令和6年よりやや低いものの、令和3～5年より高い傾向でした。

1等米比率（9月末現在）は84.9%で、令和6年より約6ポイント高くなりました。

等級落ちの理由として、県全域で、カメムシによる斑点米（着色）被害が最も多く、次いで高温障害（白未熟粒・胴割れ・刈り遅れや渇水による茶米）による品質低下となる模様です。

⇒【対策】

(1) 斑点米対策：

カメムシが多い年は、2回の防除を徹底。イネカメムシ対象とする場合は、出穂直後からの不稔被害も考慮し、早めの防除を実施する。

☆営農支援課では、ドローンによる防除作業を請け負っています。

詳しくは最寄りのJAまでお問合せください。

(2) 高温障害対策：

ア. 中干しを実施し、品種毎に適正な生育量にコントロールするとともに、根の活力維持に努める。

イ. 出穂前の3週間から出穂後の2週間の間は確実に湛水を維持する。

ウ. 刈り遅れにならない様、登熟日の目安だけではなく、帶緑色粒歩合も確認し、適期収穫を行う。

エ. 稲わら腐熟促進（秋耕）の励行や土壤分析を実施し、ケイ酸等不足している養分を積極的に施用し、土の養分供給力、急激な環境変化に対する抵抗力、根の活力を高めましょう。

表. 千葉県における年産毎の農産物検査状況（9月30日現在 10月31日公表）

年産	R7年産 (R7.9月末現在)		R6年産 (R6.9月末時)		R5年産 (R5.9月末時)	
	検査数量 (t)	1等米比率 (%)	検査数量 (t)	1等米比率 (%)	検査数量 (t)	1等米比率 (%)
うるち玄米全体	174,478	84.9	156,090	79.0	134,795	88.3
ふさおとめ	23,560	88.4	18,928	87.3	17,878	92.3
ふさこがね	62,237	85.7	51,063	75.8	38,011	90.1
コシヒカリ	61,271	84.9	65,544	79.6	62,855	87.3
粒すけ	9,944	83.2	8,725	78.4	6,788	84.6

表. 令和6年と令和7年の気象の比較

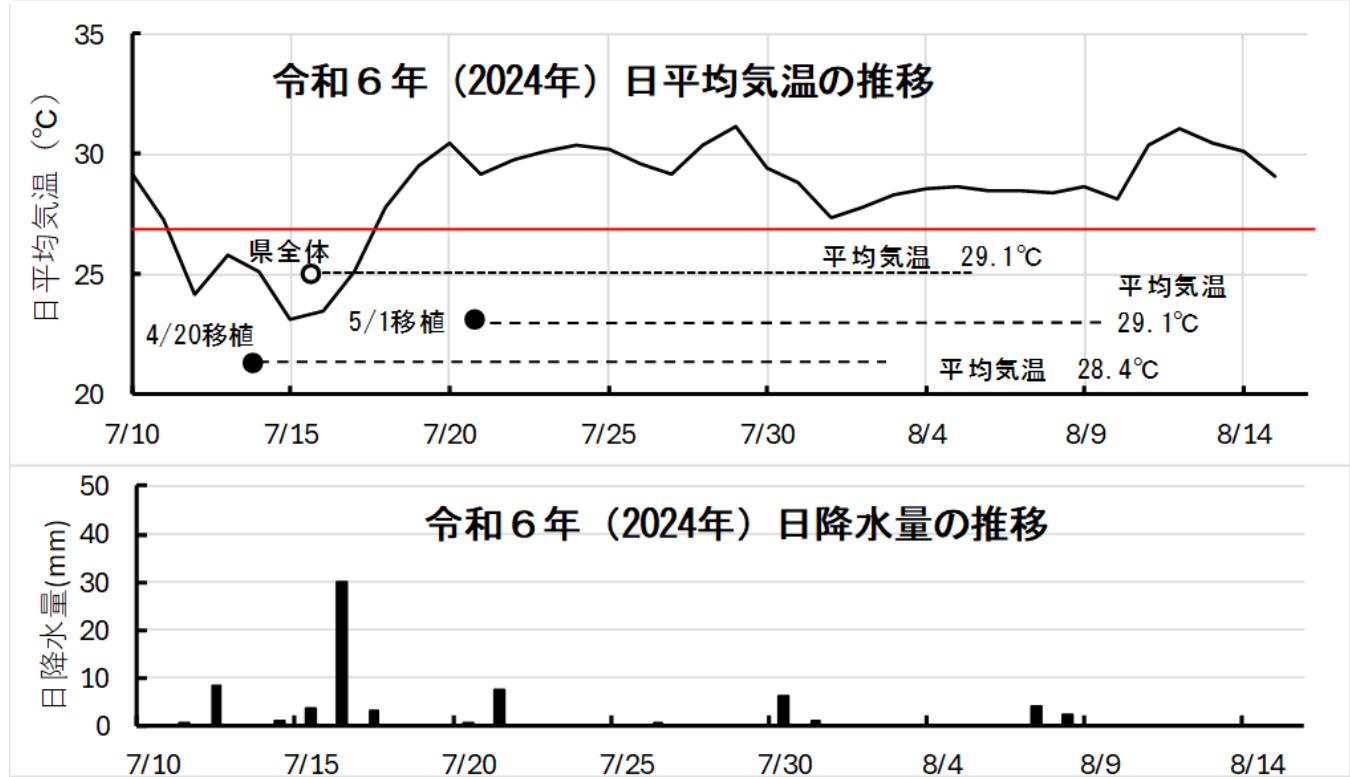
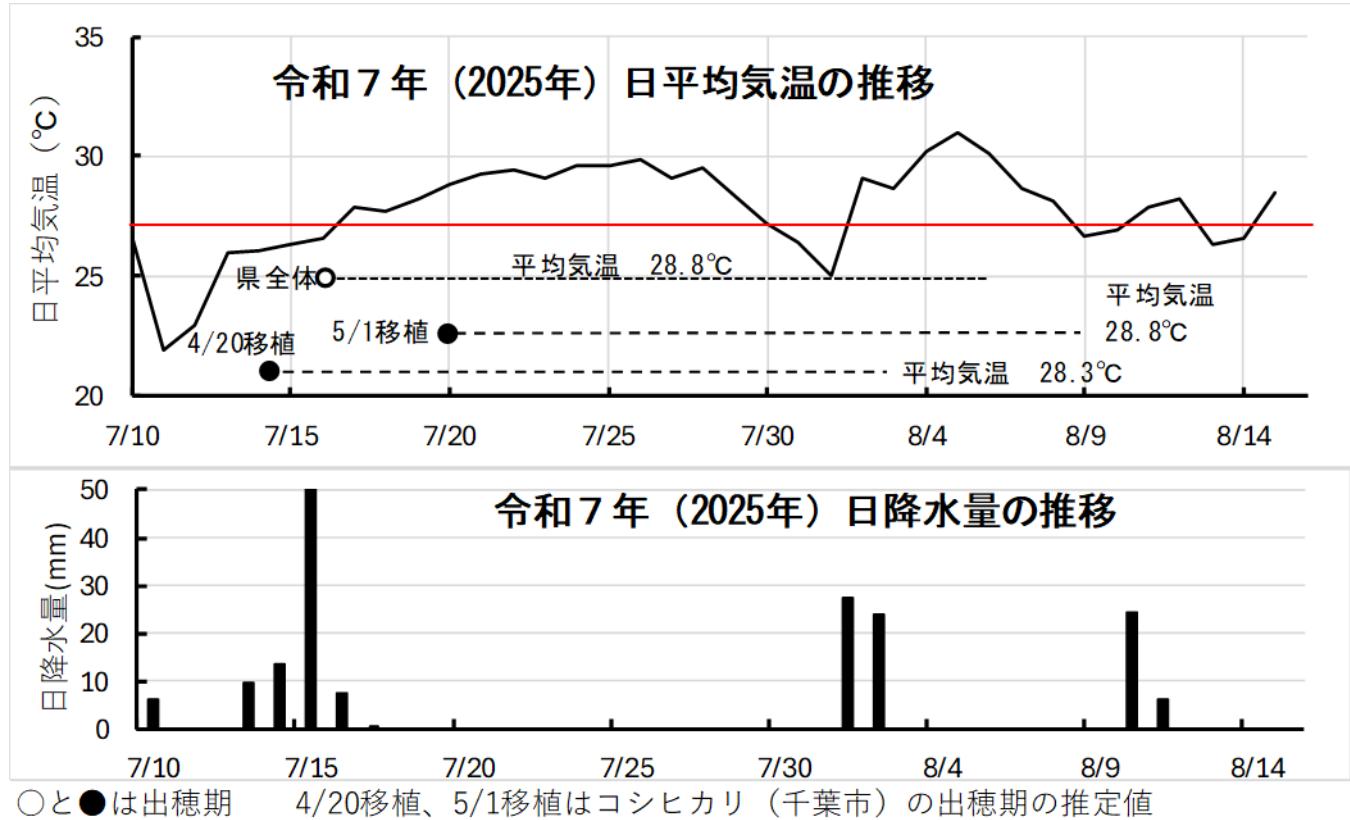


表. 主な土づくり肥料の特徴と使用方法

目的	肥料名	施用量 (10a)	特徴
稲わらの腐熟促進	石灰窒素 (窒素 20%)	10～20kg	有機物を腐熟する微生物の増殖に必要な窒素と、分解する働きを良くする石灰が含まれているので効果的。
	アグリ革命アクア	100ml	酵素により、稲ワラの腐熟化を促進。
	アグリ革命	2kg	液剤はオモダカ・クログワイなど難防除雑草対策の秋防除除草剤と混用可。
ケイ酸の補給	農力アップ (ケイ酸 20%)	3～5袋	従来のけい酸質資材と比較して利用効率が良いため、2～3分の1で効果を発揮。
	シリカサポート1号 (ケイ酸 20%)	2～4袋	溶出しやすい可溶性けい酸を多く含み稻に吸収されやすく、少量でも高い効果が期待できる。
	ケイカル (ケイ酸 30%)	5～10袋	水には溶けず、水稻の根からでる有機酸に溶けて吸収されるので秋施用が効果的。 稻体の抵抗力アップに貢献。
りん酸の補給	苦土重焼りん (りん酸 35%・ ケイ酸 9.4%)	2袋	火山灰土壤や基盤整備圃場等には、 く溶性りん酸を含んだ苦土重焼りん が効果的。
総合的な土づくり 秋落ち・ごま葉枯病 対策に	稻サポ [®] (窒素 0.8%、りん酸 7.0%、カリ 6.0%、マ グネシウム 3%、マン ガン 3%、ケイ酸 8%)	3～7袋	土づくり効果の高い「牛ふん堆肥」 「リンサン」「カリ」、秋落ち・ごま 葉枯病の対策の「微量要素」、「ケイ 酸資材」が1粒化。機械散布も可能

II. 園芸野菜 病害虫防除情報

JA全農ちば 営農支援課

1. はじめに

気象庁より12月は冬らしい寒さとなる予報が発表されています。今後、施設栽培においては、夜間の閉め切りによって湿度が高まり、葉かび病・うどんこ病・灰色かび病などの病害が拡大しやすい環境となります。薬剤防除と合わせて、換気や葉かき後の残さ処分など、耕種的な対策も実施しましょう。

2. キュウリ — コナジラミ類・アザミウマ類

11月14日に千葉県庁より発表された病害虫発生予報では、アザミウマ類の発生が「多」と発表されています。タバココナジラミはウリ類退緑黄化ウイルス（CCYV）を、ミナミキイロアザミウマはメロン黄化えそウイルス（MYSV）を媒介するなど、コナジラミ類やアザミウマ類はウイルスを媒介する害虫です。害虫による直接的な被害と同時にこれらウイルス病の蔓延防止のためにも発生初期の防除を徹底しましょう。



葉に寄生するコナジラミ幼虫（左）と成虫（右）

アザミウマ成虫

●キュウリ コナジラミ類・アザミウマ類 防除薬剤

対象害虫 ※1	IRAC コード	薬剤名	希釈倍数 ※2	使用時期	使用回数
	9B	コルト顆粒水和剤	4000		3回以内
コ	4C	トランスフォームフロアブル	1000		2回以内
	15	マッチ乳剤	2000		3回以内
コ・ミナ	4A	ベストガード水溶剤	1000		3回以内
	6	アファーム乳剤	2000	収穫前日 まで	2回以内
コ・ア		アグリメック	500		2回以内
	28	ペネビアOD	2000		3回以内
	30	グレーシア乳剤	2000		2回以内
ア	UN	プレオフロアブル	1000		2回以内

※1 コ：コナジラミ類、ア：アザミウマ類、ミナ：ミナミキイロアザミウマ

※2 登録のうち最大濃度を示す（例：1000～2000倍登録→1000）

3. トマト・ナスー灰色かび病・うどんこ病

(1) 灰色かび病

灰色かび病は20°C前後の気温と多湿を好みます。夜間、ハウスを閉め切る時間帯は湿度が高くなりがちです。除湿のために天窓換気、暖房機による早期加温、空運転等を実施するほか、薬剤散布はなるべく午前中に行い、ハウスを閉め切るまでに薬液が乾くようにしましょう。

また、果実に付着した花弁や枯れた葉が残っていると、灰色かび病の発生源になります。発病した葉や果実を通路に放置せず、必ずハウスの外へ持ち出して処分しましょう。



果実に発生した灰色かび病

(2) うどんこ病

トマトやナスなどのナス科作物のうどんこ病には、表生型と内生型の2種類があります。表生型は植物体の表面に寄生しますが、内生型は葉の内部にも病原菌が広がるため、防除がより困難になります。内生型は主に葉裏の気孔から侵入するため、薬剤散布の際は、葉裏まで薬剤がかかるように丁寧に行いましょう。



葉のうどんこ病の病斑

(3) 薬剤防除

●トマト 灰色かび病・うどんこ病 防除薬剤

対象病害	FRAC	薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数	備考
灰色かび うどんこ	M7	ベルクートフロアブル	2000	収穫前日 まで	3回以内	予防
	7	アフェットフロアブル	2000		3回以内	予防
	9+U13	ショウチノスケフロアブル	2000		2回以内	予防・治療
灰色かび	12	セイビアーフロアブル20	1000		3回以内	予防
	1+10	ゲッター水和剤	1000		5回以内	予防・治療
うどんこ	3+U6	パンチョTF顆粒水和剤	2000		2回以内	予防・治療
	50	クロスアウトフロアブル	3000		2回以内	予防・治療

※ 登録のうち最大濃度を示す(例: 1000~2000倍登録→1000)

4. レタスー灰色かび病・菌核病

レタスの灰色かび病と菌核病は、ともに冬期の霜や凍害で傷んだ下葉から発病し、最終的には結球に腐敗を引き起こす病害です。トンネル栽培では結球期前の防除が重要になります。薬剤散布をする際は、できるだけ株元にも薬剤がかかるようにしましょう。



菌核病の被害株

(1) 灰色かび病

地際に灰色のカビが発生し、のちに結球表面にも進展します。軟弱な葉の一部には褐変も見られます。乾燥しているときには被害はあまり見られませんが、曇雨天が続く場合には結球内部および表面に急激に被害が進展する病害です。

(2) 菌核病

地際や葉の裏に綿のような白いカビが発生します。湿度が高いと、やがて結球表面にも黒い菌核が発生し、被害が進展すると結球が腐敗して枯れてしまいます。

(3) 薬剤防除

●レタス 灰色かび病・菌核病 防除薬剤

対象病害	FRAC	薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数	備考
灰色かび病 ・菌核病	11	アミスター20 フロアブル	2000	収穫7日前	4回以内	予防・治療
		メジャーフロアブル	2000	収穫3日前	3回以内	予防・治療
	7+11	シグナム WDG	1500	収穫7日前	2回以内	予防・治療
	1+10	ゲッター水和剤	1500	収穫7日前	2回以内	予防・治療
	2	ロブラール水和剤	1000	収穫14日前	3回以内	予防・治療

※ 登録のうち最大濃度を示す（例：1000～2000倍登録→1000）

5. イチゴ ー うどんこ病

(1) うどんこ病

適温は20°C前後で、乾燥と多湿を繰り返すと被害が拡大します。冬場閉め切っているハウスはうどんこ病の好適な環境になるため、多発しやすくなります。ショウチノスケフロアブルやクロスアウトフロアブルのような治療効果を持つ薬剤は発生前～発生初期に使用し、予防剤でうどんこ病が低密度の期間を長く保つことが上手な薬剤の使い方です。



うどんこ病

(2) 薬剤防除

●いちご うどんこ病 防除薬剤

対象病害	FRAC	薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数	備考
うどんこ病	M7	ベルクートフロアブル	2000	収穫前日	5回以内	予防
	7	アフェットフロアブル	2000	収穫前日	3回以内	予防
	9	フルピカフロアブル※1	2000	収穫前日	3回以内	予防
	9・UN	ショウチノスケフロアブル※1	2000	収穫前日	2回以内	予防・治療
	50	クロスアウトフロアブル	3000	収穫前日	3回以内	予防・治療
	4+UN	パンチョTF顆粒水和剤	2000	収穫前日	2回以内	予防・治療

※1 ショウチノスケフロアブル・フルピカフロアブルは合わせて3回以内（共通成分：メパニピリム）

※ 登録のうち最大濃度を示す（例：1000～2000倍登録→1000）

6. キャベツ－黒腐病・菌核病

(1) 黒腐病

葉には葉縁に扇状、中央部では円形・淡黄色の病斑を生じます。その後暗褐色に変わり、特に葉脈が黒褐色となります。病斑部は古くなると枯死し、乾燥して破れ易くなります。

根の上部では導管部が黒くなり、内部も乾腐状となることが多いです。被害株は軟化・腐敗したり、悪臭を発したりします。病原菌は被害植物とともに土中に入り越冬し、翌年、降雨時にはね上って水孔や傷口から侵入し、導管を経て組織内に入ります。種子伝染もあり、発芽後、子葉頂部にある気孔等から侵入しますので、今年度被害があった場所では、ほ場外で適切に処分するようにしましょう。アブラナ科作物の連作を避けることも有効的です。

(2) 菌核病

菌核病は外葉（下葉）がしおれ、葉の軸を伝って株元までやわらくなり、白いカビが発生します。2月以降になると結球部まで被害が進みますので、結球前に防除を行いましょう。病原菌は菌核の形で土中に入り越冬しますので、被害株はできるだけ菌核を形成しないうちに適切に処分するようにしましょう。



黒腐病



菌核病 下葉・株元のカビ

(3) 薬剤防除

●キャベツ 黒腐病・菌核病 防除薬剤

対象 病害	FRAC コード	薬剤名	希釀倍数	使用時期	使用回数	備考
黒腐病	24+31	カセット水和剤	1000倍	収穫7日前	3回以内	予防・治療
	31+M1	ナレート水和剤	800倍	収穫14日前	3回以内	予防・治療
	M1	Zボルドー	500倍	—	—	予防
	24+M1	カスミンボルドー	1000倍	収穫7日前	4回以内	予防・治療
	U18	バリダシン液剤5	800倍	収穫7日前	5回以内	予防・治療
菌核病	12	セイビアーフロアブル20	1000倍	収穫3日前	3回以内	予防
	2	ロブラール水和剤	1000倍	収穫7日前	4回以内	予防・治療
	7	パレード20フロアブル	2000倍	収穫前日	3回以内	予防・治療
	11	ファンタジスタ顆粒水和剤	2000倍	収穫3日前	3回以内	予防・治療

※ 登録のうち最大濃度を示す（例：1000～2000倍登録→1000）

III. サツマイモポット苗育苗と防除のポイント

JA全農ちば 営農支援課

メリクロン苗の導入は、いもの早期肥大や形状・皮色・貯蔵性の向上が期待できます。苗を効率的に増殖し、サツマイモの品質向上に努めましょう。また、本年も1月中旬よりメリクロン苗の配布が始まります。まだご注文がお済みでない方はお近くのJAへ問い合わせ下さい。

ポット苗 育苗管理

1. 育苗床の準備

- (1) ポット苗の届く1か月前を目安に苗床の準備を行いましょう。
- (2) 前年につる割れ病などが発生した苗床は太陽熱消毒（夏季）や土壤消毒剤（クロールビクリン剤等）の使用などの実施が望ましいです。
- (3) 肥料は窒素・りん酸・カリを m^2 当たり19・26・45g（成分量）目安に施用しましょう。
- (4) 窒素の半量は緩効性肥料を使いましょう。

2. 苗が届いたら・・

育苗中になるべくイモの着生を抑える⇒苗の伸長が良くなる

- (1) 生育不良株がないかを確認しましょう。
- (2) 赤根を取り除き、直ちにポット苗を定植しましょう。
- (3) 定植後はたっぷりと灌水を行いましょう。

3. ポット苗定植後の管理

夕方の保温は早めに行い夜温の低下を防ぐ（午後3時頃を目安）

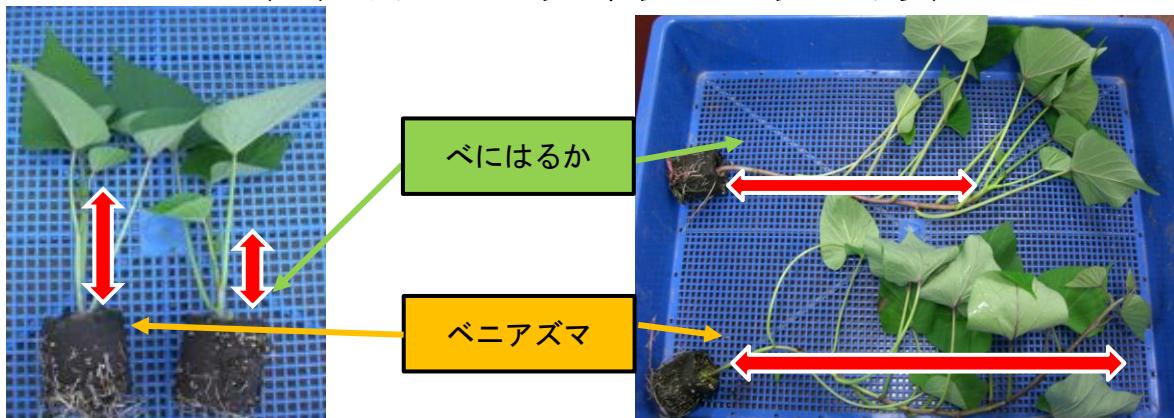
- (1) 活着まではしっかりと保温、夜間は状況に応じて保温シートをトンネルの上にかけましょう。
- (2) ハウス内の地温を25~30°C程度で維持しましょう。
- (3) ハウス内の気温は、日中25~30°C、夜間は最低15°Cを維持しましょう。
- (4) 低温と土壤の乾燥は生育を停滞させ増殖率の低下を招きます（芋の着生など）。
→保温と灌水（1回の量を減らし回数増やす）をしっかりと行いましょう。
- (5) 採苗後の追肥（ m^2 あたり窒素30gを目安）で草勢を維持することがポイントです。また、晴天時はトンネル換気に注意し葉焼けを防止しましょう。

○べにはるか、シルクスイート育苗時の留意点

「べにはるか」や「シルクスイート」は、「ベニアズマ」に比べ、苗の伸長が遅く節間が短いです。

→「ベニアズマ」の育苗よりも温度と湿度を高めに管理することが重要です！

(日中の気温を30°C以上、夜温20°C以上を目安)



病害虫防除

○防除を考えるときに注意すること

ハウスで発生している害虫は何？ ハウスで初発生したのはいつ？ どこで？

前年発生した場所・時期は特に注意して観察し、早めの防除を心掛けましょう

1. 基腐病

今年11月に茨城県ひたちなか市において、サツマイモ基腐病の発生が確認されました。

千葉県では令和3年の発生以降は確認されていませんが、引き続き対策を心がけましょう。

(1) 対策

今年も千葉県内での基腐病の発生は確認されていないため、

『持ち込まない』 対策の徹底が大切になります。

具体的には・・・苗からの持ち込みを防ぐため

○定期的な苗の更新

○健全苗の確保

○苗床消毒および苗の消毒による健全な生産

以上の3点を心がけましょう。また、購入した苗の記録は保管しておきましょう。

(2) 収穫後の本圃の管理

収穫が完了した圃場はツルなどの残さをできるだけ持ち出し、収穫後は地温が高く、土壤水分があるうちに耕うんを行うことで、有機物の分解が促進されます。

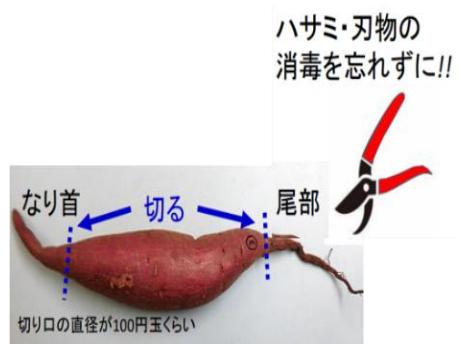
(3) 種イモの管理方法¹⁾

貯蔵前の処理として

収穫 ⇒ 水洗 + 選別後、なり首・尾部²⁾切除、

種イモ消毒 + 乾燥³⁾ ⇒ 貯蔵 ⇒ 選別 ⇒ 苗床へ

という工程を踏むことで、貯蔵中の発病リスク軽減に繋がります。



- 1) 参考資料:農研機構「サツマイモ基腐病の発生生態と防除対策(令和4年度版)」
- 2) 尾部の切除は乾腐病等による貯蔵腐敗の予防のため。
- 3) 黒斑病対策としてトップジン M 水和剤 200 倍液に 30 分間浸漬(塊根切除後、速やかに実施)し、日陰に並べて表皮が乾いたことを必ず確認してから貯蔵する(ただし、10℃以下の低温にさらさないように注意する)。

2. つる割れ病

育苗床から本圃への持ち込みには厳重注意!

土壤伝染性で苗の切り口や細根の傷口から侵入し、感染します。茎の地際部が縦に裂開してつる割れとなり、葉は紫褐色から黄変して落葉します。

(1) 防除薬剤

床土・堆肥: クロールピクリン剤[※] 3~5ml/1穴 1回 (処理後、被覆が必要)

※クロピク 80、ドロクロール、ドジョウピクリン等 使用回数は合わせて1回

苗: ○ベンレート水和剤: 500~1000 倍/1回

・植付前 20~30 分間苗浸漬 もしくは 播種時株元灌注 (20~40ml/株)

○ベンレート T 水和剤 20: 200 倍/1回

・植付前 30 分間苗浸漬

○トリフミン水和剤: 500 倍/1回

・植付前 17時間 苗基部浸漬 (浸漬時間に注意してください。)

(2) 夏季の太陽熱消毒

梅雨明け頃から育苗ハウスの太陽熱消毒をすることで、つる割病、立枯れ病、ネコブセンチュウ等の防除効果があります。以下の手順で行いましょう。

ア. 育苗終了後、株を抜き取り残渣等が無い状態にする。

イ. 灌水チューブで一昼夜を目安に十分灌水した後、古ビニールやポリフィルムでハウス全面を被覆する。

ウ. 20~40 日間ハウスを密閉し、高温状態を維持する。

※ 本資料の無断使用・複写・転載を禁じます JA全農ちば 営農支援課

3. アブラムシ類

生育初期につるの先端に寄生し、ウイルス病を伝搬します。

葉に寄生し、吸汁加害するため、生育が抑制されます。

○防除薬剤：アドマイヤー顆粒水和剤	10000 倍	収穫 7 日前まで/2 回以内
トレビン乳剤	1000 倍	収穫 7 日前まで/3 回以内
コルト顆粒水和剤	4000 倍	収穫前日まで/3 回以内

4. ハダニ類

葉裏に寄生し、葉を吸汁加害して生育が抑制されます。葉表から吸汁箇所がかすり状に透けて見えます。

○防除薬剤：マイトコーネフロアブル	1000 倍	収穫 3 日前まで/1 回
コロマイト乳剤	1000 倍	収穫前日まで/2 回以内
コテツフロアブル	2000 倍	収穫前日まで/2 回以内

5. コナジラミ類

成虫、幼虫が葉の裏面から吸汁して加害します。

密度が高いと白化現象、退色、萎凋等が起こることがあり、すす病も併発します。

○防除薬剤：サンマイトフロアブル	1000～1500 倍	収穫前日まで/2 回以内
ベストガード水溶剤	1000 倍	育苗期/3 回以内
コルト顆粒水和剤	4000 倍	収穫前日まで/3 回以内

IV. 安全な農作物生産の取り組みについて ～農薬・肥料の保管方法～

JA全農ちば 営農支援課

1. 農薬と肥料はきちんと保管しましょう！

農薬には毒物や劇物などの危険物が、肥料には発熱・発火・爆発の恐れがあるものがあり、**管理方法を誤ると重大な事故につながる資材**であることを改めて認識する必要があります。特に、盗難や紛失は大きなリスクを伴います。また、家族や従業員による農薬の誤飲・誤使用を無くすためにもきちんと保管・管理を行いましょう。

2. 農薬の保管方法



3. 肥料の保管方法



4. 在庫管理について

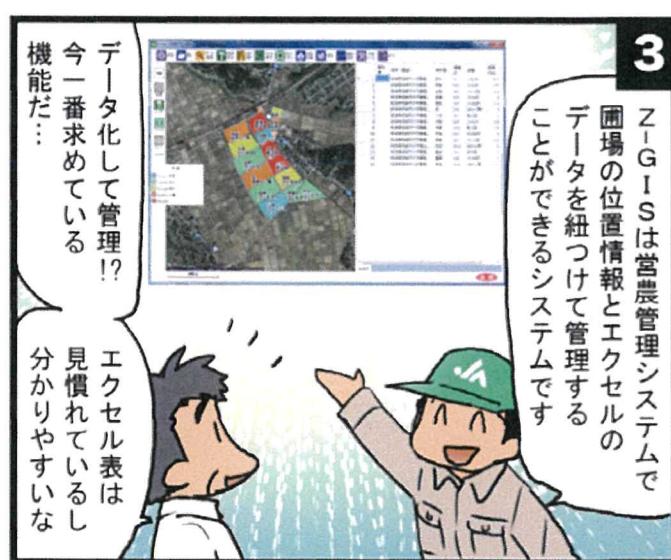
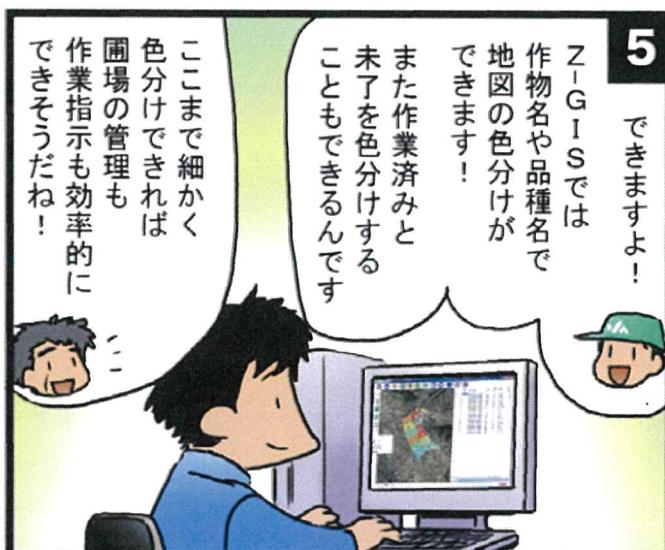
農薬と肥料は購入数・使用数が分かるように在庫管理を行いましょう。栽培記録等で使用量の詳細が把握可能であれば、袋・ボトル数単位の管理から始めましょう。在庫管理をすることで、無用な追加購入を避けることができます。また、盗難・紛失等の事件・事故が発生した場合に、迅速に状況を把握することができ、さらに自身の使用状況を客観的に他者に伝えることができます。

記録例⇒

資材A	8月1日	8月5日	8月27日	9月5日	9月19日	9月25日	10月8日	10月18日
入庫(kg)	80				90			
出庫(kg)		15	15	15		15	15	15
在庫(kg)	80	65	50	35	125	110	95	80

※ 本資料の無断使用・複写・転載を禁じます JA全農ちば 営農支援課

圃場管理ならお任せあれ！ スマートフォンに表示可能 営農管理の強い味方！Z-GISのご紹介★



●営農管理システム「Z-GIS」のお問い合わせは

一般社団法人 農協協会 Z-GIS管理部

JA全農 耕種総合対策部 スマート農業推進課

TEL.03-3639-1125

TEL.03-6271-8274



<https://z-gis.net/99/>

今ならお得なチャンス！

はじめようスマート農業キャンペーン

日々の作業を
効率化しませんか？

2025年12月1日▶2026年3月31日

営農情報を地図で可視化！



全農 営農管理システム

キャンペーン期間中、ご希望の方は



レイミーの
AI病害虫雑草診断

スマートフォン用アプリ

との連携機能もご利用いただけます！

※Z-GIS既存会員の方も新たにレイミーオプションに加入する場合は、初回に限り4か月目まで無料で活用できます。

入会者 (新規のみ)

利用料

ご加入月
から 4か月目
まで

無料

例：2月15日申込の場合、5月末までの利用料が無料

※キャンペーン中はレイミー連携機能もご利用いただけます

申込みやレイミー連携の
詳細はホームページから！



1月から
開催予定！
メールで
ご案内

Z-GIS 初級者向けWEB講習会開催

キャンペーン期間中の入会者向けZ-GISの初級WEB講習会を開催

1月20日、2月5日、2月17日 ※すべて16:00～1時間



全農 営農管理システム

でできること

1 管理項目別に色分けや抽出が可能！

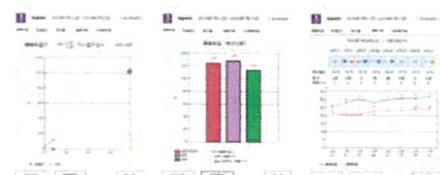


2

管理項目を
地図上に表示！



3 1kmメッシュ気象情報を確認可能！



4

スマホからも
簡単入力可能！



利用料金は、100圃場ごと月額220円(税込) 費用を抑えて圃場管理が始められます！

【お問い合わせ】JA全農耕種総合対策部スマート農業推進課 TEL03-6271-8274 ✉ zz_zk_smart@zennoh.or.jp

JAグループ

全農